

かいほ ジャーナル



愛します! 守ります! 日本の海

2025
SPRING | Vol. **100**

特集

第十一管区海上保安本部 石垣海上保安部

誇りと自覚と覚悟を胸に 領海警備に全力を尽くす



かいほ ジャーナル

C O N T E N T S



Vol. **100**

2025 SPRING

PHOTO GRAVURE

1 かいほジャーナル 祝100号発刊！

4 **特集** 第十一管区海上保安本部 石垣海上保安部

誇りと自覚と覚悟を胸に 領海警備に全力を尽くす

12 *NEWS FLASH*

裏表紙

Information

目指せ海上保安官

かいほジャーナルを手にとったいただきありがとうございます。
平成十二年から発刊しております海上保安庁情報誌「かいほジャーナル」は、本号で100号を迎えました。
海上保安庁は、1948年に海上の安全と治安の確保を任務として創設され、海上における犯罪の取締り、領海警備、海難救助、環境保全、災害対応、海洋調査、船舶の航行安全等に取り組んできました。
本誌では、海上で活動し、普段皆様にご覧いただく機会の少ない海上保安官の姿を、季刊誌としてその時々の方針や話題を取り上げ、読者の皆様にお届けしてまいりました。
創刊から本号発刊に至るまでの四半世紀の間には、平成十三年の「九州南西海域工作船事件」の発生や、平成二十四年の尖閣三島（魚釣島、北小島、南小島）の海上保安庁による取得・保有といった社会的反響の大きな出来事もありました。
海上保安官は国民の皆様の安全・安心を守るため、二十四時間三六五日、今、この瞬間も、日本の海をはじめとした様々な場所で業務に当たっています。
本誌では引き続き、人知れず海上保安業務に当たっている海上保安官の姿を、タイムリーに、分かりやすく皆様にお届けしていきます。
創設以来、脈々と受け継がれる「正義仁愛」の精神を改めて肝に銘じながら、日々襟を正し真摯に振る舞い、国民に信頼され愛される「力強い海上保安庁」であり続けられるよう、職員一同全力を尽くして参ります。
今後ともご理解とご声援のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



メッセージ

海上保安庁長官 瀬口良夫



かいほジャーナル 祝100号発刊!





誇りと自覚と覚悟を胸に 領海警備に全力を尽くす



近年、我が国の近隣諸国等は、海洋進出の動きを活発化させており、特に尖閣諸島周辺海域をめぐる情勢は緊迫化している。その中で、同海域警備の最前線を担うのが石垣海上保安部である。全国に71ある海上保安部の中でも最大規模を誇る石垣海上保安部の今をレポートする。

取材・文／北川 聡（フォーラムK）

石垣海上保安部の現状

石垣海上保安部は沖縄県石垣市浜崎町の石垣港湾合同庁舎に所在し、石垣市、竹富町、与那国町の1市2町を管轄、その周辺海域を担当水域としている。担当水域の特徴として①尖閣諸島を含む日本の南西端に位置する国境海域を管轄②日本とアジアを結ぶ国際航路（大型クルーズ船令和元年148回寄港）③豊かな漁業資源④豊かな自然（観光資源、年間148万人の観光客が来島）⑤離島地域（海上輸送に依存）⑥台風の進路（毎年5つ前後が襲来）が挙げられる。

尖閣諸島とは、魚釣島、北小島、南小島、久場島、大正島、沖ノ北岩、沖ノ南岩、飛瀬などからなる島々の総称である。尖閣諸島周辺の領海の面積は約4,740平方キロメートルで、東京都と神奈川県の間を合計した約4,605平方キロメートルを超える広さだ。

石垣海上保安部の令和6年度末の職員数は全国の海上保安部の中で最多の654名（陸上職員46名、船艇職員608名）で、組織体制は部長、次長のほか、管理課、経理補給課、警備救難課、交通課、所属船艇で構成されている。所属船艇は巡視船14隻、巡視艇2隻、監視取締艇1隻の計17隻が配備されている。



巡視船「やえやま」入港



中国海警局に所属する船舶と並走する巡視船



巡視船「よなくに」と「とかしき」

通常、次長は2名であるが、ここでは3名配置され、全国の海上保安部で数か所しかない経理補給課が組織されている。

田中健彦石垣海上保安部長は語る。「海上保安能力強化に関する方針に基づき、増加する若手職員の育成が重要な課題となっています。また令和の時代に入り、人材確保難や離職者の増加などの様々な課題にも直面しており、これらの課題解決のため、石垣海上保安部でも業務の効率化や働きやすい職場環境の醸成に取り組んでおり、職員一人ひとりが、自身や家族との時間を充実させ、やりがいを持って働きつつけてもらうための環境を整備し、国民の期待に応え続けることができ、組織を目指しています。

いわゆる中間管理職にあたる職員には、保安部の次長なり課長なり私も含め、『情報共有に努めながら、仕事をやっていくてください。愛情を持って部下に接しなさい。』と言っています。相手を尊重する気持ちと寛容性が大切だと伝えています。若い乗組員を含む全ての職員に向けては訓示やメッセージの中で、3つのキーワードを伝えるようにしています。『皆さんの仕事は大切な仕事なので、石垣海上保安部の職員として“誇り”と“自覚”と“覚悟”を持って行動してください。』

インタビュー



石垣海上保安部長
たなか けんじ
田中 健彦

600名超の大所帯を明るくマネジメント

保安部長としての仕事は、基本的にマネジメントです。保安部や船艇の職員が、尖閣諸島の警備をはじめとした各業務に積極的に取り組めるよう、また、その仕事がいやいやしくなるように環境や雰囲気を作ることが大事だと思っています。

もちろん、言わなければいけないことは言いますが、感情的にならないように理路整然と伝えることや、常に明るく接することを心掛けています。

また、私がどのような考えを持っているかをきちんと伝えるべきだと考えています。基本的な心構えなど「このようにしてほしい」ということは、年頭の訓示やメールの署名にメッセージを添えること等、機会を捉えて伝えるようにしています。

石垣保安部は、600名を超える職員が在籍する当庁最大の保安部です。私一人の眼では、職員全員の状況を把握することはできませんので、各船長や各課長等の各級管理者を通じて管理していくことが不可欠です。そして、私や次長とこれら管理者間で情報や意識を共有して各管理者を支えつつ、全体として強く健全な組織であり続けることを目指しています。

緊張度が急激に高まった尖閣諸島周辺海域

石垣海上保安部は当初から今日のような大きな組織であったわけではない。平成24年頃まで職員数約100名の標準的な規模の海上保安部だった。ではなぜ石垣海上保安部がこれほどまで拡充されたのか。理由はもちろん、近年の中国の動きに他ならない。

接続水域内で中国の法執行船が初めて確認されたのは平成20年12月。平成24年9月に尖閣諸島の長期にわたる平穩かつ安定的な維持及び管理を図るため、海上保安庁が尖閣諸島の魚釣島、北小島、南小島の三島を取得・保有して以降、状況が一変する。

平成24年には接続水域内確認日数が91日、領海侵入件数も23件と急増した。平成25年には接続水域内確認日数は倍以上の232日となり、平成28年から30年にかけて減少するものの、令和元年から再び急増し、令和6年における接続水域内確認日数は355日（連続確認日数は令和5年12月から令和6年7月にかけて215日）、領海侵入件数は39件に上った。同年6月7日には、いずれも砲を搭載した中国海警船4隻が接続水域に入域し、同日、領海侵入する初事例が発生している。

尖閣諸島周辺海域をめかりなく警備

石垣海上保安部には巡視船14隻、巡視艇2隻、監視取締艇1隻（計17隻）が配属されている。その内1,000トン型巡視船（PL型）10隻が尖閣領海警備専従船として整備されたものであり、複数クルー制を導入することにより、運用効率を上げ、巡視船10隻で12隻相当の運用を実現している。

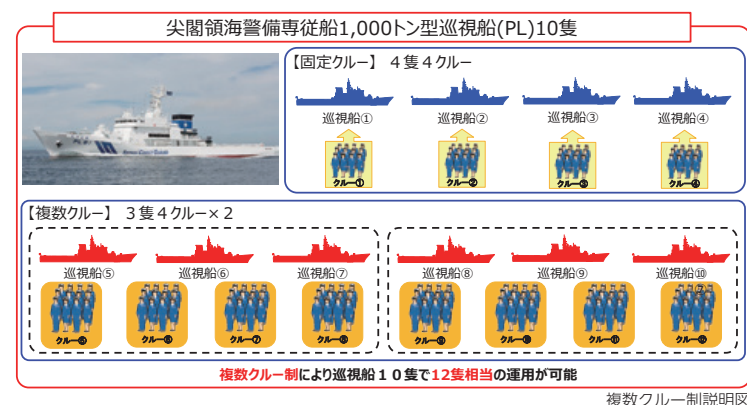
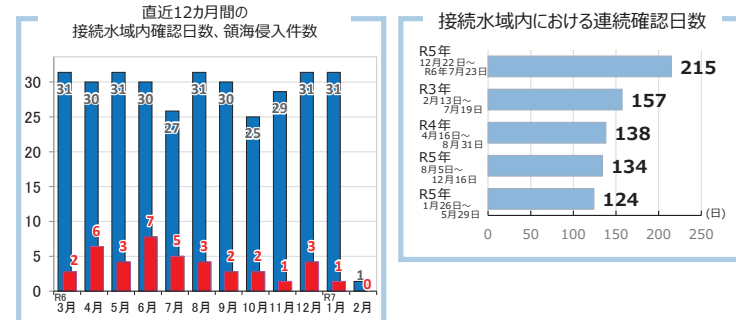
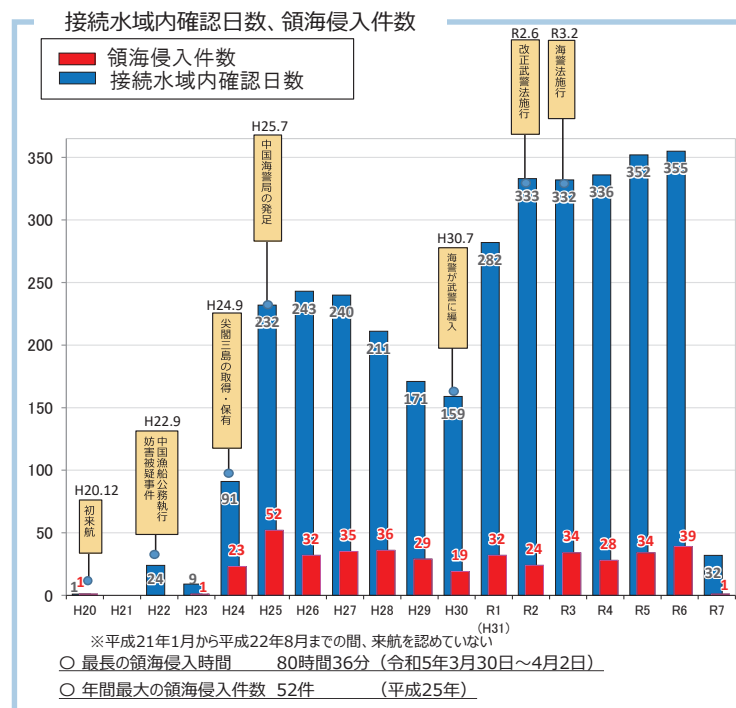
10隻のうち4隻は、固定クルー制で運航される。一方、その他の6隻は、3隻

を4クルーにより運航することで、巡視船を稼働させ続けながら、交代で乗組員を休ませることが可能となった。大型巡視船で複数クルー制を導入しているのは石垣海上保安部のみである。

令和6年2月に就役したPL型巡視船「やえやま」は、石垣海上保安部に所属している他のPL型と総トン数で比較すると倍以上ありひととき大きい。この大きさのおかげで少々海が時化しても支障なく航行することができ、水も燃料も多く積載可能なため、長期間の行動や災害対応

令和6年2月に就役したPL型巡視船

尖閣諸島周辺海域における中国海警船等の状況 ※令和7年2月1日時点



などにも能力を発揮することができる。尖閣諸島周辺海域においては、ほぼ毎日、中国海警船による活動が確認され、領海侵入も相次いでいるほか、日本漁船に近づこうとする事案も繰り返し発生しており、現場に配備した巡視船がこれらの対応にあたっている。

現在も各巡視船は「冷静に、かつ毅然と」を基本として淡々と業務を遂行している。現場では中国海警船とにらみ合った状態が続いており、緊張感は相当なものだろう。しかし、巡視船「やえやま」の溝口直樹船長は「重要なことは、いざという時



大型巡視船が何隻も停泊



巡視船「やえやま」

にどれだけの対応ができるか」ということです。中国海警船の大きさや火器の大小というところは、そこまでは気にはしていません。ただ、国際的情勢や全体の動きを見ながら次にどう動いてくるかということは常に気にしながらになりますが」と心強い。

また、尖閣領海警備に関して多くの人に知っていただきたい重要なことがある。それは、尖閣諸島周辺には巡視船が24時間365日、常にいるということである。田中保安部長は語る。「中国海警局に所属する船舶がいる限り、台風が来ても、海がどれだけ時化ようと現場で踏ん張って警備に当たっています。パトロールで行って帰ってくるだけではないのです。ずっと、現場にいます。」



石垣港湾合同庁舎



巡視船「やえやま」の前で乗組員集合写真

インタビュー



巡視船「やえやま」船長
みぞぐち なおき

溝口 直樹

巡視船と乗組員を 共に育てる

巡視船が果たすべき業務を遂行するために緊張感が必要なのですが、過度のストレスを感じるようではいけない。ただ、いざという時はしっかりと動ける体制を維持しておくということが一番大切な仕事かなと考えています。「明るく」「前向きに積極的に」「何事も一丸となって取り組む」という3つを掲げ、日々の業務に取り組んでいます。

巡視船「やえやま」の業務は尖閣周辺海域の警備が中心となり、業務はどうしても警備業務に偏ってしまうので、特に若い乗組員には「しっかりといろんな知識を身につけなさい」と指導しています。空いた時間には海技試験や資格取得のための勉強をすることを勧め、犯罪取締りや安全指導などの業務も本船では機会が少ないため、保安部で1週間程度、研修を実施させてもらうこともしています。

「やえやま」が就役して1年。他のPL型に比べると総トン数で倍以上ある大きな船ですので、本船だからできることを見極め、所属船の中での位置付けをしっかり作っていきたいと考えています。



船橋



OIC区画



公室



多目的室



調理室

各課の主要業務

管理課

職員の任免や給与に関すること、宿舍の入退去および維持管理、健康診断等の福利厚生に関する事務などを所掌。職員数が多いため、職員の健康管理、メンタルヘルス対策、ハラスメント対策、不祥事防止対策など、業務の円滑な遂行のための後方支援が主な業務。

警備救難課

管轄する海域には尖閣諸島が含まれており、領海警備を重要な任務と位置付けて対応している。また外国漁船等による違法操業の監視取締り、船舶やマリネジャー等における事故への対応、テロ対策、密輸・密航対策も行う。船艇職員は昼夜を分かたず 24 時間これらの業務にあたっており、同課においては船艇の運用調整をはじめ、様々な業務を行う。

経理補給課

配備されている 17 隻の巡視船艇等の円滑な運用ができるよう燃料や、物品等の調達契約を行う。また、石垣島は台風が通過する経路上に位置していることから、庁舎や岸壁等の施設の維持管理も重要な業務。

交通課

八重山の沿岸海域はサンゴ礁帯の浅瀬が数多く存在するため、船舶の乗揚げの危険性が高いことから、安全に航行できるよう灯台や灯標等の航路標識を設置し維持管理を所掌。マリネジャーにおける事故防止の啓発、地域業者への指導等、大型クルーズ船等に対する船舶航行の安全指導も行う。

石垣海上保安部特有の業務

業務のメインは尖閣領海警備だが、国境エリアであることから、密輸・密航対策や外国漁船による違法操業取締り、大型クルーズ船安全対策も重要な業務だ。

その他にも、石垣島が日本屈指のマリネジャーリゾートのひとつであることから、マリネジャー事故防止のため、ライフジャケット着用の推進や海上安全指導員・警察等と連携し安全対策を実施している。また、海洋環境保全活動にも取り組み、平成14年に「八重山環境ネットワーク」を立ち上げ、年間を通じて官民一体となったビーチクリーン等の環境保全活動を積極的に実施している。

教育旅行（修学旅行）で訪れた高校生に対する業務紹介等の受け入れを継続的に実施していることも石垣海上保安部特有の業務だ。平成30年に石垣海上保安部、石垣航空基地、八重山ビジターズビューローおよび八重山教育旅行誘致委員会により「八重山教育旅行に関する協定」を締結。令和5年度には6校340名の実績を残した。

「石垣海上保安部の責務は尖閣諸島警備の主要勢力としての役割を果たしていくことだけではなく、八重山の海の『安全』と『秩序』を維持していくことも欠くこ

とのできない極めて重要な業務です。他機関と連携し、地域と強い繋がりをもち続けることが大切であると考えています。」と田中石垣海上保安部長は締め括った。



大型クルーズ船入港時の安全指導



ライフジャケット着用推進活動



合同海浜パトロール



教育旅行での巡視船施設説明



船の運用を通して 尖閣警備を支援する

石垣海上保安部
警備救難課
救難係

たいら けんじ
平良 圭

海上保安学校卒業後、巡視船に機関科の乗組員として乗り、主にエンジンの整備点検を担当していました。その後、石垣海上保安部所属の CL 型の巡視艇に乗船した際に、陸上職員と直接関わる事が多く、陸上勤務に興味を湧いたことから石垣海上保安部警備救難課を志望しました。

現在の業務は主に巡視船の運用調整や着岸する岸壁の調整を行っています。石垣海上保安部は所属船の隻数が多いため、円滑に運用するための細かな調整に苦労します。調整に関しては、こちらの意見ばかりを通そうとせずに、相手の要望もきちんと受け入れるように心掛けています。船の運用調整は周りから評価されづらいのですが、うまく調整できて業務が滞りなく円滑に進んだ時には「やったぜ自分」とやりがいを感じます。

私自身、10 年ほど前に PL 型巡視船に乗船し尖閣警備を行っていたことから、尖閣警備の苦労や過酷さを理解しているつもりです。現在尖閣警備を行っている現場で活躍する仲間へ寄り添う思いで仕事をしています。

海上保安学校卒業後、巡視船に航海科の乗組員として乗り、領海警備業務等の警備救難業務を経験し石垣海上保安部の交通課航行安全係に配属されました。

交通課の業務には航行安全業務、安全対策業務、航行援助業務の3つがありますが、私は航行安全業務を担当しています。主要業務の一つである港長業務では海上工事や作業に伴う申請書の審査や受領に携わっています。まだまだ未熟者ですが、分からないままにせずに上司や先輩に質問する等しながら、日々の業務に取り組んでいます。

日常的に工事の事業者など外部の方と接しますが、気軽に質問や相談をしていただけるように丁寧な対応と話しやすい雰囲気作りを心がけています。自分たちが許可を出して実際に工事をしている姿を見ると、海上保安庁が担っているものはすごく重要な業務なんだと実感しました。

これからもさまざまな海上保安業務に携わり、海上保安官として視野を広げて行きたいです。



安全に航行できる 港づくりに 丁寧な仕事で貢献

石垣海上保安部
交通課
航行安全係

めどろま りゅうせい
目取真 龍聖

「やえやま」職員インタビュー



目標は 頼りがいのある機関士

巡視船「やえやま」
機関科
機関士補

にしひら せいや
西平 星矢

2024 年の 4 月に海上保安学校を卒業し、1 年目で巡視船「やえやま」に機関科の乗組員として乗っています。本当に「でかい」船で最初の 3 か月には船内の場所を覚えるのに必死でした。

エンジンの運転や整備が主な業務ですが、故障が発生した場合には、機関科職員全員で原因を考え、一丸となって復旧に取り組めます。故障が直ると、大きな達成感とやりがいを感じます。部品の一つ一つに名前があり役割があるので、それを覚えるのが大変です。作業するにあたっては、自分の判断が正しいかどうかを上司に確認した上で行動するようにしています。何を聞いても教えてくれる頼れる機関士補の先輩がおり、先輩を目標に日々頑張っています。

人から頼られる仕事がしたいと思い入庁しました。この仕事は、親戚や友人から職業を問われた時に、「海上保安官」と自信を持って答えられる仕事だと思います。

今後もいろいろな業務を担当すると思いますが、日本の海を守り抜くという強い志を持って頑張っていきたいと思っています。

沖縄の海に囲まれている環境で育ったため、海に携わる仕事に就きたいと思っていました。専門学校で海上保安官から業務説明を聞いて、海の治安維持に貢献したいと思い入庁を目指しました。それまで料理はあまりしなかったのですが、仕事を通して料理が上手くなっていったらいいと思うようになって主計科を志望しました。

業務で一番気を付けているのが衛生管理です。一度出港したら病人が出た際の対応が大変です。衛生管理を徹底して食中毒を起こさないように心がけています。また、作業時間をもっと短縮できるよう、効率よく考えながら調理することを心がけています。

乗組員が食事のメニューが好物だと喜んでくれたり、食べ終わった後に「ごちそうさまです。美味しかったです」という言葉をかけてくれた時に、やりがいを感じます。これからも乗組員のモチベーションアップにつながるような料理を、もっと技術を向上させて作っていったらいいと思います。

海の治安維持に おいしい料理で貢献

巡視船「やえやま」
主計科
主計士補

いしはら じゅん
石原 純





幅広い分野で 専門知識を駆使する エキスパートを目指す

石垣海上保安部
管理課
総務係

あさと ともあき
安里 朋晃

現在の主な業務は、庁舎や職員宿舍の管理、留置関係、広報対応、教育旅行や小中学校の職場体験等の調整などで外部の方と繋がりが大きいですね。

庁舎関係では、見積依頼に伴う仕様書の作成など建築業的な業務が主で、宿舍関連では不動産業に近い対応が求められます。業務分野は多岐にわたり幅広い専門知識が求められます。毎回わからないことの連続で、日々勉強ですね。

一番気を付けていることは、電話やメールをする際に言葉遣いやメールの書き方次第で相手を怒らせたり誤解を生むことがありますので、気になることは調べてから書いたり、話すときも話す雰囲気につけて話すようにしています。

船での業務にはセンスが必要な技術が多々あるのですが、体で覚えるということが少し苦手で、あまり向いてないと思う時も何度かありました。陸上勤務のデスクワークでは、知識を積み重ねるほど業務のレベルが高まるのが実感でき、充実した日々を過ごしています。

海上保安学校卒業後は巡視船に主計科の乗組員として2年半乗りました。巡視船で勤務していた時、必要な物品の調達や燃料の調整はいつも経理補給課を通していたことから同課の重要性を実感したことが志望した動機です。現在の主な業務は物品の調達や船の消防設備の有効期限の管理、不足品の調査です。

私は主計科出身なので、特にエンジンや配管のことなど機関科の部分に関しては聞き慣れない専門用語が多く今でも苦勞しています。経理補給課にきた当初はプレッシャーでつぶれそうになった時があったのですが、それに気づいてくれた上司に面談していただき、心が軽くなりました。気遣いがすごうれしかったです。

仕事で応対する業者さんは専門知識が豊富で、一つの業務に対していくつも関連情報を教えてくれます。別の機会に、それらを活用して説明できた時にはやりがいを感じます。まだまだ覚えるべきことはありますが、「あの職員に聞けば何でも答えてくれるよ」と頼りにされる縁の下の力持ちのような職員になりたいです。



縁の下の力持ちを 目指して業務にまい進

石垣海上保安部
経理補給課
補給係

いしみな あみ
石嶺 亜実

石垣海上保安部職員・巡視船



中国語研さんの 意欲を秘めて 尖閣警備に臨む

巡視船「やえやま」
通信科
主任通信士

こいけ ゆうと
小池 悠仁

大学受験で進路を考えていた時、小学生のころは海に関する仕事に就きたかったことを思い出しました。高校は文系の国際系だったので、海の仕事は基本的に理系のことと思いあきらめかけていたのですが、中学生の時に職場体験で第四管区海上保安本部に行ったことを思い出しました。海上保安大学校について調べると、高校での学びプラスアルファで入試に臨めることがわかったので勉強を始め、無事、入庁できました。

海上保安大学校卒業後、第2外国語の語学研修で中国語を学びたいと考えていたので、中国語を使う現場最前線である尖閣警備の現場を体験し、意欲を高めて研修に臨むため石垣海上保安部を志望しました。

現在乗っている巡視船のメイン業務は尖閣警備です。外から見ればルーチ的な業務に見えがちですが、領土を守るという思いは常に根底にあります。日々の業務をおさなりにすることなく、しっかりと自分の行っている仕事に大切な役割、使命があるという気持ちで業務に取り組んでいます。

小学生の時にフェリーの航海士に憧れて船の仕事を目指し、商船高専に進学しました。有資格者として当庁に採用され、門司分校を修了し巡視船に乗りました。その後、他管区の海上保安部交通課を経て、巡視船に航海科の乗組員として勤務しています。

航海士補として、レーダーや双眼鏡を用いて見張りをしたり、先任航海士から指示された方向に舵を切るのが主な業務です。船の操舵は、車のようにハンドルを切った分だけ一定量曲がるという感じではなくて、波や風の影響を大きく受け、それに応じて操船方法も変えなければならぬところが難しいです。船を動かすのは好きなので楽しいのですが、今年から後輩ができ、教えることの難しさに頭を悩ましています。

「やえやま」の乗組員のうち女性は私を含めて2人ですが、困ったり嫌な思いをすることはありません。年の差があっても話しやすい人ばかりで、相談したり勉強を教えてもらったり、航海長などの上司にも気軽に希望を言えるとてもいい環境だと思います。



頼られる先輩を 目指して奮闘中

巡視船「やえやま」
航海科
航海士補

くぼ みさき
久保 美陽

1月 本庁 警備救難部 1月8日

巡視船「せつ」が海賊対策のため
東南アジア周辺海域に向けて出港
～巡視船の派遣は50回目となります～



大学校 1月15日

海上保安議員連盟による
校内視察



十一管区 中城保安部 1月26日

巡視船「いしがき」一般公開



2月 二管区 本部 2月3日

海上自衛隊との
不審船共同対処訓練



九管区 能登保安署 12月9日

能登海上保安署仮事務所開所式



学校 保安学校 12月11日

令和6年度早朝訓練開始!



三管区 羽田特殊救難基地 12月13日

特殊救難業務研修修了式



十管区 本部 12月19日

新造測量船「さくらびき」デビュー!



12月 大学校 12月2日

4学年I・II群及び初任科乗船式



六管区 玉野保安部 12月3日

NTT西日本との
応急通信資機材搭載訓練



七管区 本部 12月3日

巡視船「かんばい」進水式



本庁 警備救難部 12月4日

警備救難競技全国大会開催





「118番」の日周知活動

二管区 宮城保安部 1月16日

学校給食版・
みなと塩竈海保カレー提供



四管区 本部 1月15日

VTuberとのコラボ動画公開



一管区 紋別保安部 1月14日

オホーツクとっかりセンター
撮影会



三管区 下田保安部 1月18日

海保フェスタin下田



九管区 本部/新潟基地 1月16日

FM新潟「118番」をラジオで啓発



八管区 敦賀保安部 1月15日

118番ケーブルテレビCM放送



海上保安庁 映像通報システム Live118

動画提供

急病・怪我人の処置に関する動画の提供を受けることができます。



映像通報

音声で伝えることが難しい現場の状況をスマートフォンで撮影した映像を送受信することができます。



海上保安庁が必要と判断した場合にLive118による撮影を依頼します。

令和7年1月18日、118番通報の情報伝達・収集手段の強化を図るため、現場の状況を映像でリアルタイムに伝えることができる「Live118」という新たな通報システムの運用を開始しました。

本システムの導入により、通報者と海上保安庁との間で、通報者がスマートフォンで撮影した映像を送受信することにより、音声や文字による通報では伝えることが難しい現場の状況を、より正確に共有することが可能となります。

加えて、この通報システムでは、海上保安庁から通報者に対し、急病・怪我人の処置に関する解説動画を提供することも可能となります。

「Live118」運用開始
海での事件・事故の通報を映像で！

目指せ海上保安官

海上保安庁では、当庁職員養成機関である海上保安大学校及び海上保安学校の学生を募集しています。

「海上保安官採用サイト」では、各採用試験に関する情報のほか海上保安官の職種紹介、学生・職員の声やオンライン説明会など様々な情報を掲載しています。

あなたも海上保安官として活躍してみませんか？



■海上保安官採用サイト <https://www.kaiho.mlit.go.jp/recruitment/>

2025年度採用試験日程

海上保安大学校	本科	海上保安大学校学生採用試験 □受付期間／8月21日(木)～9月8日(月) □第1次試験日／10月25日(土)及び10月26日(日) □受験案内配布時期／6月11日(水)～	▶▶	試験の対象・ワンポイントなど 高卒程度 卒後2年未満 幹部海上保安官になる
	初任科	海上保安官採用試験 □受付期間／2月20日(木)～3月24日(月) □第1次試験日／5月25日(日) □受験案内配布時期／2月3日(月)	▶▶	大卒程度 30歳未満 大卒から幹部海上保安官になる
海上保安学校	2025年 10月入校	海上保安学校学生採用試験(特別) □受付期間／2月20日(木)～3月13日(木) □第1次試験日／5月11日(日) □受験案内配布時期／2月3日(月)～	▶▶	試験の対象・ワンポイントなど 高卒程度 卒後13年未満 現場第一線の海上保安官になる
	2026年 4月入校	海上保安学校学生採用試験 □受付期間／7月11日(金)～7月24日(木) □第1次試験日／9月28日(日) □受験案内配布時期／6月11日(水)～	▶▶	高卒程度 卒後12年未満 現場第一線の海上保安官になる
	有資格者	海上保安官(有資格者)採用試験 □受付期間／(第1回)6月頃 (第2回)10月頃 □第1次試験／(第1回)7月頃 (第2回)11月頃 ※詳細な日程、受験資格等については、受付開始の2週間前を目途に、ホームページに掲載する予定としております。	▶▶	<採用職種> 航海、機関、通信・技術、飛行、整備、航空通信

入学すると…

国家公務員としての身分が与えられ、毎月給与と年2回の期末・勤勉手当が支給されます。
また、国土交通省共済組合員としての社会保障を受けることができます。
入学金・授業料は一切不要です。また、学生生活に必要な制服や寝具等はすべて貸与されます。

問い合わせ先

学校採用試験関係(海上保安大学校・海上保安学校)

■海上保安庁総務部教育訓練管理官付試験募集係
■TEL:03-3580-0936

有資格者採用試験関係(海上保安学校門司分校)

■海上保安庁総務部人事課任用係
■TEL:03-3591-6361(内線2540～2542)



海上保安庁

〒100-8976 東京都千代田区霞が関2-1-3
Tel.03-3591-6361



採用担当X

https://x.com/@JCG_saiyou

